辛かった日々もみんなで乗り越えた
シャトルを打つ音が鳴り響いた体育館
繁藤小学校と繁藤中学校が今年3月で休校となります

特集 若藤のころ

繁藤小学校校歌
作詞・作曲　朝倉　智

一、日はさんらんと　気はすみて
天地の恵み　ゆたかなる
ここ北嶺の　たかさとに
生まれてのぶる　さいわいを
共に讃えん　ああ我等

二、穴内川の　水清く
流れて　とわにいく久し
うつろう世にも　かわらざる
古き良風　ならい知り
共に学ばん　ああ我等

三、国見の山は　厳として
いく春秋の　昔より
大森林の　母となる
仰ぐ希望を　いやもして
共に励まん　ああ我等

繁藤中学校校歌
作詞　幾井　忠雄
作曲　丸山　和雄

一、ほころび初めし　花桜
光に舞える　若鳩(ばと)に
応えて近き　甫喜ヶ峯
ああこの丘よ　学び舎よ
三歳(みとせ)の春に　夢匂う

二、星座は白き　暁の
流るる霧に　見晴るかす
山河の緑　眼にしみて
ああ若き日よ　友垣よ
互(かたみ)に誓う　理想(のぞみ)あり

三、思いで清き　故郷に
生命(いのち)の群れの　息づけば
自然に永久(とわ)の　啓示(さとし)あり
ああ太陽よ　天と地よ
平和の鐘を　我つかん

繁藤小・繁藤中沿革

繁藤小学校は、明治27年に繁藤尋常小学校として、創立しました。一方、中学校は昭和22年の学制改革により、天坪中学校（現在の大豊町に校舎があった）として始まっており、繁藤小学校（当時の校名は天坪村立第三小学校）に分校が併設されていました。昭和28年に、天坪中学校の新校舎が繁藤駅前地区に落成し、昭和33年に校名を変更し、繁藤中学校となりました。

昭和47年に起きた**豪雨・繁藤山崩れ災害**では、繁藤小の6年生1名が亡くなったほか小・中ともに親を亡くした在校生もいました。

また、繁藤小・繁藤中の当時の校舎は、救護活動や自衛隊宿舎として提供されました。

昭和55年に現在の校舎・体育館・給食棟が新築落成し、小中同じ校舎で学ぶようになりました。繁藤小の全校児童数は、昭和56年に50人、平成13年に19人、平成21年に7人と減少してきており、現在は2年生1人・6年生1人の合計2人。繁藤中も昭和56年に16人、平成13年に8人、平成21年に7人と減少しており、現在は2年生2人・3年生1人の合計3人。

平成17年3月に、県教育委員会が示した『高知県における小中学校の適正規模について』を受け、検討してきた結果、今後、児童数が増える見込みがなく、今年3月をもって、119年続いてきた繁藤小学校と66年続いた繁藤中学校は休校となりました。

▲背景透かしは繁藤小校章（上）・繁藤中校章（下）

◆繁藤小学校・中学校の全校児童生徒数の推移

（人）

	平成18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年
小学校	15	14	10	7	7	5	2
中学校	11	14	12	17	10	8	3

土佐山田町繁藤地区

繁藤地区は、北は大豊町・本山町と南は南国市と接しており、標高350m以上で、雨量は年間3000mm～4000mmと多く、高知県の最多雨地の一つ。昭和30年に旧天坪村は大豊村へ合併されたが、昭和31年、住民投票により、旧天坪村の河ノ川・繁藤・北滝本・樫谷・上穴内の5地区が土佐山田町に編入され、昭和35年、西又が香北町から土佐山田町へ編入。繁藤には3つのダムがある。ダム湖に沈んだ穴内地区は日本一のマンガン産地であり、炭鉱員でにぎわっていた。同地区の人口は昭和47年に923人。現在は351人（平成25年2月1日現在）。

小学生と中学生が同じ校舎で育ち　豊かな心が育まれました

繁藤中学校長
繁藤小学校長　森本　國裕（もりもと　くにひろ）

2年前に繁藤小学校・繁藤中学校に赴任し、両校の校長としてご活躍された森本校長にお話をお伺いしました。

赴任当初、休校の話はまだ聞いておらず、1学期が終わるころに市教育委員会から休校が検討されていることを聞き、自分も職員も寂しい思いをしました。しかしながら、今いる子どものことを考えると余りにも人数が少なく、仕方がないという思いもあります。

転入先の香長小学校へは去年まで、学期に1回交流を行っていましたが、今年は交流の機会を増やし、月に1回香長小に行き、香長小からも年に数回来てもらい、繁藤小で授業を受けてもらっています。中学生は年4回鏡野中学校で授業を受けています。

休校に向けて話が進んでいった後も、地域の方や、子どもたちも含めて、運動会やロボットコンテストなどのコンテストにも精いっぱいやろうと取り組んできました。昨年12月には「**エネルギー利用」技術作品コンテスト**で全国準グランプリに値する経済産業省製造産業局長賞を受賞することもできました。子どもたちにとっても自信になり、良かったと思います。

また、小・中学生が同じ校舎で育ち、休み時間に一緒に遊んだり、体験学習を一緒にすることで、豊かな心が育まれたと思います。